

No. 956

ミュンヘンの腕試し —日ソ対抗バレー—

日ソ対抗女子バレー ボール大会第2戦は5月7日、愛知県体育館で行なわれ、大接戦のすえソ連が第1戦の雪辱を果しました。

第1戦をストレート負けしたソ連がベストメンバーで臨んだのに対し、全日本は若手中心で対抗。ソ連が第1、第2セットを先取して楽勝と思われましたが、全日本が猛反撃をみせてついにフルセット。最終セットも2-10の劣勢から16オールまで追い上げましたが、ついに力尽き、ルイスカリのうまさにやられて惜敗しました。

— 人 の 道 —

家出。昭和46年度、全国で提出された搜索願いは、5万件を上廻る。そのうちの30%は20歳未満の少年や少女だ。彼等の多くは東京に出て来る。

彼等は大都会のシンボル東京タワーに一度は訪れる。そして彼等の多くがここで保護される。

その様々な動機、警視庁少年課長は

「学校で教師にしかられてとか、友達とうまくいかないとか、両親とけんかした、しかられて、というのが多いですね」

家出した少年少女のおよそ7人に1人は、その後、転落していくという。都會に巣喰う暴力団の犠牲になったり逆に被疑者になったりした少年少女が家出入だった例は多い。

どこでどう狂ったのか。一度は未来を信じた若者達の青春。喧噪の現代に身を処しきれない弱さにつけ込む様々の誘惑。

東京ルーテルセンターにある『命の電話』事務局にかかる電話も、孤独な青春の悩みが殆んどだ。

あるカウンセラーは、

「主として高校生からかかる問題は、何をやってもおもしろくない。勉強もなんのためにするのかわからない……」

♪雨のふる日も、風の日も、一人の世界を突っ走る

何のために進むのか、痛い足をがまんして……

今、一枚のレコードが、深夜放送で人気を呼んでいる。

悲痛な遺書を残して自殺した、マラソンランナー円谷選手。彼の苦しさを想ってつくられた『一人の道』。

眠りを知らない夜の都會に眠もやらず、受験勉強に励む高校生や浪人。悩みつづける青少年。

円谷選手の苦しさに共感できるのだろうか。

どんな生活をしようと、彼等もまた、現代の人生レースを走るランナーなのだ。